

## 宮沢賢治のエピソード

『人間のやさしさ強さ』堂心社 金沢嘉一 著 よ

ある日同じクラスの友だちの一人が、先生に叱られて廊下に立たされることになった。その時の罰は、茶わんに水をいっぱいいたのを両手で支えて持っていなければならないことになっていた。そして一滴の水もこぼしてはならない。もしもこぼしたなら、次の罰として、バケツに水を入れて頭の上ののせていなければならないのである。

賢治は、その友だちのことが気にかかって仕方がなかった。茶わんの水はこぼれていないだろうか……と心配でたまらなかった。

授業の途中で、先生は教材の一部を忘れていたのに気がついて、級長の賢治に職員室へ

行って持ってくるようにいつけた。

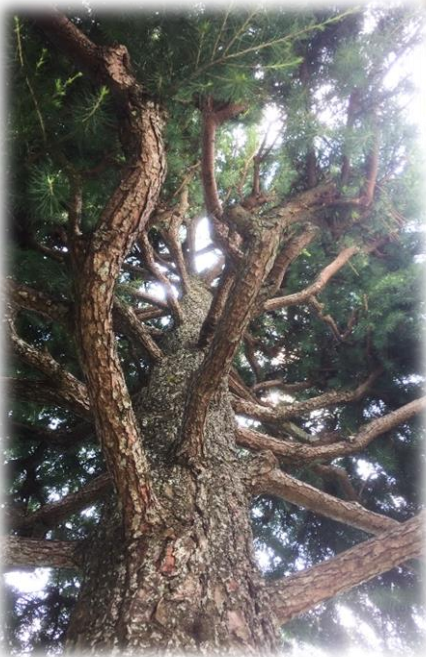
賢治は、これ幸いと教室を出て職員室に向かった。

廊下に出ると、そこには水をいっぱいについた茶わんを持ったまま立たされている友だちがいる。友だちは緊張のあまり、手がふるえていまにも水がこぼれそうであった。それを見た瞬間、賢治は、その茶わんの水をガブガブと飲んで、「つらかっただろう」といったそうである。

そんなことをして、あとで先生にわかれば、自分がどんな目にあわなければならないか。などとは考えていなかったのである。

友だちを助けてあげたい、その一心だけで行動できる宮沢賢治のすごさを物語るエピソードです。自分がその場面にいたら、声をかけることはできたかもしれませんが、茶碗の水を飲むことはできなかったと思います。友だちを大事にできる一人に、いつも願うことです。

## 校庭で発見



いつも見ているところではなく、ほんの少し視点を変えただけで、新たな発見があるものだと思います。

左の写真は、ヒマラヤスギを下から見上げたところ、上の写真は、百日紅に張り付いた葉。

面白いと思い、カメラのシャッターをパチリ。

少しの余裕で、ちょっとしたところも、全く別の景色と

ことを実感します。

スピード化の時代、たくさんの素敵な風景を素通りしてしまっているのではないかと思います。

リニア新幹線が少しずつ実現化しようとしています。でも、そのほとんどはトンネルになるようです。トンネルのコンクリート壁ばかり見せられたら、どうなるのでしょうか。もっとその土地土地の風景を見たくないので……。

少しテンポを落とした生き方は、退職後になってしまうのでしょうか。それはそれで、また寂しくなるように思います。